

## 世界遺産委員会決議に基づく調査団受入れについて

2005年に開催された第29回世界遺産委員会において、知床が世界自然遺産に登録された際に、「登録後2年以内に、海域管理計画の履行の進捗状況と遺産地域の海洋資源の保全効果について評価するための調査団を招くこと」が決議された。

既に登録後2年を経過しているが、2007年3月6日付けで知床保全状況報告書を提出した際に、2008年初旬に調査団を招聘することについてユネスコ世界遺産センターの了解を得ていたところ。現在、2008年2月中旬に調査団を招聘することで調整を進めている。

調査団（予定）：キショレ・ラオ（ユネスコ世界遺産センター次長）

デービット・シェパード（IUCN 保護地域事業部長）

日程（案）：2月中旬

日程	調査内容	宿泊地
1日目	来日	東京
2日目	日本政府による登録後の経緯説明 東京から羅臼町へ移動	羅臼
3日目	多利用型統合的海域管理計画に関する意見交換会 現地視察（漁港、オオワシ・オジロワシ観察、羅臼ビジターセンター）	ウトロ
4日目	登録後の取り組み状況に関する説明会 ・ 河川工作物の評価・改修について ・ エゾシカの保護管理について ・ 利用適正化に向けた取り組みについて ・ エコツーリズムの推進について 現地視察（河川工作物、流氷など）	ウトロ
5日目	地域連絡会議メンバーとの意見交換会 ウトロから東京へ移動	東京
6日目	離日	